

# 福祉サービス第三者評価結果報告書

2011 年 3 月 4 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 160-0017  
東京都新宿区左門町3番地  
所在地 左門イレブンビル3階

特定非営利活動法人福祉総合評価機構

評価機関名

認証評価機関番号

機構 03 - 081

電話番号 03-3352-6730

代表者氏名 清水 康之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号	
		(規定により氏名非公表)		福祉	H0303063
		(規定により氏名非公表)		福祉	H0702006
		(規定により氏名非公表)		経営	H0304082
福祉サービス種別	認可保育所				
評価対象事業所名称	若葉台バオバブ保育園				
事業所連絡先	〒	206-0824			
	所在地	東京都稲城市若葉台4-17			
		042-331-6258			
事業所代表者氏名	和田 秀一				
契約日	2010 年 9 月 1 日				
利用者調査票配付日(実施日)	2010 年 9 月 6 日				
利用者調査結果報告日	2010 年 10 月 19 日				
自己評価の調査票配付日	2010 年 9 月 1 日				
自己評価結果報告日	2010 年 10 月 19 日				
訪問調査日	2010 年 10 月 27 日				
評価合議日	2010 年 12 月 6 日				
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査実施にあたり、理解促進のため、調査票の配付時に調査の趣旨や第三者評価制度の概略を記した依頼状を添付するとともに、園内掲示用のポスターを作成した。また調査開始後に提出御礼と未提出者への呼びかけをかねたチラシを全対象者に配付し、提出促進の一助とした。事業所職員対象の説明会では、所定の事項の説明のほか、評価項目への理解を深めることについても配慮し、自己評価実施にあたっての質問を随時受け付ける旨を伝え、よりの確な自己評価実施に配慮した。				

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2011 年 3 月 1 日

事業者代表者氏名

印

〔利用者調査：認可保育所〕

(事業所名：若葉台バオバブ保育園)

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯99を対象として実施した。  
なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は標準様式に準拠した。調査票に添付の封筒による機関への直接郵送にて回収し、調査結果は選択式設問・自由回答ともすべて園に報告した。なお自由回答の取り扱いについては、回答者の匿名性に配慮して、表記の加工などの処理を適宜行っている。

利用者総数

99

共通評価項目による調査対象者数

99

共通評価項目による調査の有効回答者数

60

利用者総数に対する回答者割合(%)

60.6

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として、園に対する満足度は「大変満足」60.0%・「満足」35.0%の計95.0%と高い支持を得ており、自由意見では「子ども一人ひとりをしっかり観察し、個を尊重して生活させてくれており、自然とのふれあいの機会も十分、年の違う子と一緒に遊ぶことも多く、家庭保育だけでは得られない経験をたくさん積むことができる」「保育の考え方、食事、健康に対する考え方全て気に入っている」「子どもにも親にもとても親身になって関わってくれ、安心して子どもをお願いすることができ、子育て等の悩みも相談しやすい」「子ども達がとことん遊べる環境を与えてくれ、何より先生方自身が自然体で楽しそうに保育にあたっている」などの声が寄せられている。  
さらなる向上を望む意見としては、保健衛生や安全管理、職員の子どもや保護者への対応、職員の体制に関することなどが主に見られた。  
設問別では「食事」「戸外活動」「急な利用時間変更への対応」「傾聴姿勢」「プライバシーの保護」「子どもが大切にされている」など15問中11問で80～90%台の高い支持を得ており、それ以外の設問でも「安全対策」のみ50%を下回ったほかは70%台の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	59	0	1	0
選択の割合(「無回答・非該当」を除く・以下同)は、「はい」が98.3%、「いいえ」が1.7%となっている。 自由意見は13件で、「農家と契約して食材を仕入れるなど、家庭以上に『食』への配慮がある」「手作り、素材にもこだわりがあり、子どももおいしいと喜んで」「子どもの調子がよくない時はこちらが要望しなくても配慮食にしてくれ、非常にありがたい」「アレルギーにも配慮してくれ、安全への配慮と不公平さを感じさせない工夫に感謝で一杯」など、すべて肯定的な内容である。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	59	0	1	0
「はい」が98.3%、「いいえ」が1.7%となっている。 自由意見は7件で、「夏は真っ黒に日焼け、冬は外遊びをしてもらっており大変満足」「涼しい日は午前中だけでなく、夕方も外で遊んでいて楽しそう」「十分すぎるほど遊んでいると思う」などの声があった。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	54	2	1	3
「はい」が94.7%、「どちらともいえない」が3.5%、「いいえ」が1.8%となっている。 自由意見は「嫌がらずにとっても親切に対応してくれ、『あわてずに来てください』『お疲れ様です』と言ってくれる」「残業で間に合わない時、お友達のお迎えにも対応してくれて助かる」「とても感じよく対応してくれた」など5件があった。				

4. 子どもの体調変化への対応(処置・連絡)は、十分か	52	4	3	1
「はい」が88.1%、「どちらともいえない」が6.8%、「いいえ」が5.1%となっている。 自由意見は「発熱時のお迎えにも「すぐに」とか「早く」とか追い詰めるような言い方は聞いたことがなく、ありがたい」「お友達がケガした時などは噂話的に伝わる前にアナウンスしてくれるといい」「保育中の投薬が廃止されたのが残念」など4件があった。				
5. 安全対策が十分取られていると思うか	28	23	7	2
「はい」が48.3%、「どちらともいえない」が39.7%、「いいえ」が12.1%となっている。 自由意見は15件で、「虫除けスプレーにも子どもに安全なものを用意するなど、細かいところに配慮がされていて安心できる」などのほか、外部侵入対策や保育中の安全確保、設備に関することなど、回答者それぞれに気になる点が挙げられている。				
6. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	52	6	2	0
「はい」が86.7%、「どちらともいえない」が10.0%、「いいえ」が3.3%となっている。 自由意見は「平日の夜などは父親が参加できない行事もあるが、特に問題はない」「行事の予定が直前までわからなかったこともあったが、できれば1ヶ月前には紙面で知らせしてほしい」「懇談会の日程が平日夕刻からと固定されたことについては、そうせざるを得ない事情があることもわかるが、保護者側の仕事の都合にも配慮してほしい」など5件があった。				
7. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	50	7	2	1
「はい」が84.7%、「どちらともいえない」が11.9%、「いいえ」が3.4%となっている。 自由意見は「とても親身になって聴いてくれ、細かく子どもの様子を見てくれる」「いつも話しかけやすい雰囲気、こちらの話をとても一生懸命に聞いてくれる」「忙しい中で本当によく話をし、聞いてくれ、気持ち楽になる」「連絡帳を通してのやりとりが主なので、できればもう少し担任に書いてほしい」「先生方は忙しく、話せる時間がない」など9件があった。				
8. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	52	3	3	2
「はい」が89.7%、「どちらともいえない」が5.2%、「いいえ」が5.2%となっている。 自由意見は「家庭訪問があったのが良かった」「話しやすい人と、少し素っ気ないと思う人といういる」「お迎えの時はスタッフの人数も少なく、先生方はとても大変そうで、話す機会がなかなかない」など4件があった。				
9. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	54	2	1	3
「はい」が94.7%、「どちらともいえない」が3.5%、「いいえ」が1.8%となっている。 自由意見は「一日中一緒に過ごしているので、子ども同士でいろいろ話して、子どもから他の家庭の話も聞くこともあるし、神経質になりすぎるのもどうかと。親同士のコミュニケーションがあれば気にならない」など3件があった。				
10. 一人ひとりの子どもは大切にされていると思うか	56	3	1	0
「はい」が93.3%、「どちらともいえない」が5.0%、「いいえ」が1.7%となっている。 自由意見は「時には親以上に大切にしてくれているように見え、ありがたい」「保育の方、皆が優しく柔らかな言葉かけをしてくれるような気がする」「担任ではない大人が子ども名前をよく覚えていて声をかけてくれ、ありがたい」など6件があった。				

〔利用者調査：認可保育所〕

(事業所名：若葉台バオバブ保育園)

11. 職員の対応は丁寧か	50	9	1	0
<p>「はい」が83.3%、「どちらともいえない」15.0%、「いいえ」が1.7%となっている。                  自由意見は「仕事後にバオバブの大人と話すとき明るい気持ちになれることもある」「誰でも気持ちよく挨拶してくれて、朝も、夕方も気分よく園に行ける」「丁寧な方と、そうでない方と、対応が統一されていない」「人により愛想のない人がいる」など6件があった。</p>				
12. 要望や不満を事業所に言いやすいか	47	8	3	2
<p>「はい」が81.0%、「どちらともいえない」が13.8%、「いいえ」が5.2%となっている。                  自由意見は「時間をとって、別室で聞いてくれる等、話は聞いてもらえる」「今まで直接言う機会はないが、そう思ったときは言える雰囲気があると思う」「保護者の意見など伝えても、園側の言い訳にしか聞こえない場面が多い」の3件があった。</p>				
13. 利用者の要望や不満はきちんと対応されているか	45	11	1	3
<p>「はい」が78.9%、「どちらともいえない」が19.3%、「いいえ」が5.2%となっている。                  自由意見は「急なことにもできる限り対応してくれ、感謝している」「話は聞いてもらえるが、その後の対応、実施策等については報告がないので、本当に園全体で考えてもらえているのか、わからない」「全員の要望、不満に沿うことは不可能なので、ある程度は仕方ない」の3件があった。</p>				
14. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	44	3	12	1
<p>「はい」が74.6%、「どちらともいえない」が5.1%、「いいえ」が20.3%となっている。                  自由意見には記入がなかった。</p>				
15. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	9	2	1	0
<p>該当者12人のうち9人(75.0%)が「はい」と答えている。                  自由意見は「細かく書かれた書類とともに直接説明され、質問も受けてくれた」「入ってみたいとわからないことが多かった」の2件があった。</p>				

組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7、8)

共通評価項目	
カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定
サブカテゴリー1(1-1)	
事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>9 / 9</b>	
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <span style="float: right;">評点( )</span>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<b>評価項目2</b> 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点( )</span>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;">評点( )</span>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
カテゴリー1の講評	
<b>事業所理念の周知徹底</b> 法人全体での理念として「保育の理念」を定めている。この理念は利用者に対しては「入園のしおり」などで表明して配付しているほか、入園説明会や保護者懇談会の機会を利用して説明することにより、周知を図っている。また職員に対しては保育課程や「BBハンドブック」(保育マニュアル)を全職員(非常勤を含む)に対して配付しており、年度当初の職員会議で読み合わせを行うなどして確認を行っている。	
<b>経営層の責任遂行</b> 園長・副園長をはじめとした経営層の役割については、「BBハンドブック」において園長・副園長・総務に関する具体的な業務内容と責任の所在を示しているほか、園長不在時の代行責任者などを明示しており、全職員に周知されている。なお年度当初の職員会議では、これらの内容に関する確認が行われて徹底されている。	
<b>重要案件の決定手順の明確化への取り組み</b> 当法人では主任を置かないこととし、各ブロックにおけるブロックリーダーを設置しており、その役割は「BBハンドブック」の中で明示されている。重要案件の検討は運営委員会で行った上で、決定にあたっては職員会議において行うことで現場の意見を反映させるようにしている。また各会議の位置づけや役割などについても、「BBハンドブック」の中で明示されている。決定内容を利用者に伝える手法としては、園便りやお知らせ文の配付、懇談会等の機会を通じて説明を行うなどの取り組みを行っている。	

カテゴリ-2	
2	経営における社会的責任
サブカテゴリ-1(2-1)	
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>4 / 4</b>	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	
評点( )	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	
評点( )	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している

サブカテゴリ2(2-2)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
<b>評価項目1</b> 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある 評点( )		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当
<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している 評点( )		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当
<b>評価項目3</b> 地域の関係機関との連携を図っている 評点( )		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当
<b>カテゴリ2の講評</b>		
<b>職員倫理・ボランティア等の受け入れ</b> 保育課程の「職員綱領」として職員倫理について明示され、年度当初の職員会議では読み合わせを行っている。また実習生やボランティアの受け入れは保育課程における記載のほか、「受入要綱」の中にその内容と役割分担が定められており、受け入れ時にオリエンテーションを行っている。特に実習反省会に行くことでより良い実習成果を得ることに注力している。また地域のハンディキャップを持つグループに業務委託を行うことで貢献することにも取り組んでいる。年間でボランティア20名程度、職場体験25名程度、実習生20名程度の受け入れ実績がある。 <b>地域活動・地域への情報</b> 子育てひろばの事業「スイミー」を開催しており、「あそびの会」(施設開放、毎週2回)・「土ようびひろば」(月2回)・「赤ちゃんの会」(乳児の育児相談、月2回)・「おしゃべり会」(月2回)のほか、園庭開放、子育て講座、おもちゃや本の貸し出しなどを行っており、毎月「スイミー通信」を300部程度発行して登録者に送付したり、市役所などの関係機関に置くなどして周知に努めている。これらを利用している地域の子育て家庭は年間数千組にのぼり、地域の子育て支援に寄与している。 <b>地域のネットワークへの参画</b> 市の教育委員会が主催している地域教育懇談会(中・小学校、幼稚園、保育所などによる懇談会)に参画し、関係機関で連携して問題に対応・解決できる体制を整えているほか、3月には卒園児に関する情報共有のための会合も地域で行われている。また子育てに関する問題に対して、関係機関との連携によって解決に結びつけた事例も確認された。		

3	カテゴリ-3	
サブカテゴリ-1(3-1)		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>8 / 8</b>
<b>評価項目1</b> 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)		評点( )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当
<b>評価項目2</b> 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		評点( )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当
<b>評価項目3</b> 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		評点( )
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当
カテゴリ-3の講評		
<b>苦情解決制度の積極的な実施</b> 苦情解決制度が整備されて第三者委員も任命されており、制度の概要は「入園のしおり」やホームページにも記載されて周知が図られているため、今回の利用者調査においても7割以上の利用者が制度の存在を認知している。また苦情受付ボックスについても、玄関に設置されており、利用者の意向を受け入れることに努めている。今後は第三者委員との交流をできるだけ行っていきたいと考えている、とのコメントがあった。		
<b>利用者意向の把握と活用</b> 毎年行われている利用者調査に対しては、原則として保育所側のコメントを掲載してフィードバックしている。また行事実施時には利用者からアンケートで収集するなどしているほか、個人面談や保護者懇談会、グループ懇談会のほか「園長と話す会」(年1回)などの機会を利用して意思疎通を図るようにしており、収集された意見に対しては個別に対応を行っている。		
<b>地域からの情報収集・情報公開</b> 地域のひろば事業に園長が参加して情報収集したり、子育て講座においてアンケートを取るなどして地域のニーズ収集に取り組んでいる。また、業界情報や行政の動向などについては、各種情報誌の活用や団体を通じた情報収集を行っているほか、地域教育懇談会に参画することによって取り組んでいる。		



カテゴリ-4	
4	計画の策定と着実な実行
サブカテゴリ-1(4-1)	
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>11 / 11</b>	
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	
評点( )	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している
○非該当	
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している
○非該当	
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
○非該当	
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	
評点( )	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている
○非該当	
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている
○非該当	
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している
○非該当	
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している
○非該当	
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる	
評点( )	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している
○非該当	
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている
○非該当	
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している
○非該当	
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
○非該当	

サブカテゴリー2(4-2)		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		4 / 4
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		評点( )
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当
◎あり ○なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p><b>中長期計画策定に向けた取り組み</b></p> <p>中・長期計画立案に向けた、5年単位・15年間の計画の素案が示されており、今年度から法人内の4園の職員12名の委員による「中長期計画試案検討会」を発足させ、中・長期計画の完成に向けた新たな取り組みを開始している。この検討会では、来年3月に試案を策定することを目標に、毎月1回の定期的な討議を重ねている。今後予定どおりにさらに詳細な中・長期計画の立案が実現されることが期待される。</p> <p><b>年間事業計画と実行計画の策定と実行</b></p> <p>現在の年間事業計画は、施設ごとの運営計画として策定されている。中・長期計画自体が2011年度からの実行を想定しており、今年度については中・長期計画と年間事業計画の連動性は確認できない状態にあるため、今後の「中長期計画試案検討会」における議論の進捗が期待される。年間事業計画の進捗状況については「経過報告」として概ね四半期に一度の理事会において報告がなされている。なお、日常の業務遂行については「年間予定表」が策定された上で「委員会・係」の一覧表において担当者が定められている。</p> <p><b>安全確保への取り組み</b></p> <p>「安全防災委員会」が組織されて会議が実施され、情報共有が行われており、今年度からは年度当初の職員会議で安全に関する情報収集を行ってマニュアル化している。また10分ミーティングでの情報共有や「インシデント報告書」をもとに、再発防止への注意喚起を行っているほか、園庭での保育士のポジション取りなどについても細心の注意を払っている。なお利用者調査では園内の衛生やケガ等の状況についての意見が散見されているが、現在すでに対策に取り組み始めている。</p>		

カテゴリ-5	
5	職員と組織の能力向上
サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>7 / 8</b>	
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <span style="float: right;">評点(      )</span>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点(      )</span>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>

サブカテゴリー2(5-2)		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
<b>評価項目1</b> 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる <span style="float: right;">評点( )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
<b>評価項目2</b> 職員のやる気向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
<b>カテゴリー5の講評</b>		
<b>理想の職員像の明示と徹底・職員採用・職員配置</b> 「BBハンドブック」の中に「職員として心がけたいこと」として、子どもとの接し方や保護者対応など、当園の求める職員像が列举されており、年度当初の職員会議においては確認を行っている。採用にあたっては、論文・アンケート・実習・面接によって行い、当園の状況に合わせて必要な人材を確保しているほか、職員配置に際しては、職員の希望アンケート、ヒアリングの上、園長が案を作成、職員の討議を経て会議で検討することとしており、職員の希望や意見を採り入れた上で園長が決定することとしている。		
<b>職員の育成手法</b> 毎年3月には職員アンケート(前年度の振り返りと今年度の自己啓発目標など)を行って面談を行うこととしている。また人間関係の構築のための年度当初の職員会議のほか、「職員としての育ち合い」(ファシリテーションプログラム)を職員育成の柱として位置付けて育成マネジメントに取り組んでおり、年度交代制のブロックリーダー制を布いている。参加すべき研修会については職員の希望をもとに決定することとしており、研修報告も記録・整備され、資料配付や事務室における閲覧によって情報共有に取り組んでいる。		
<b>職員処遇と福利厚生・非常勤職員の情報共有化</b> 職員自己評価では時間外勤務などについての要望が散見されているが、カウンセラーや操体(専門家による体のゆがみの矯正)の導入を行ったり、夜の会議の減少や休憩時間取得の奨励・推進などの改善に取り組んでおり、今後も改善に取り組む必要を認識している、とのコメントはあった。また、職員自己評価では非常勤職員との情報共有についての問題点の指摘が見られるが、全職員用のウォールポケットを利用して連絡会議報告の共有化を図るようにしているほか、必要なことは情報共有できるよう配慮している。		

7	カテゴリー7
情報の保護・共有	
サブカテゴリー1(7-1)	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7 / 7</b>	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる <span style="float: right;">評点(     )</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している <span style="float: right;">○非該当</span>
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している <span style="float: right;">評点(     )</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
カテゴリー7の講評	
個人情報保護への取り組み 個人情報保護規程が整備されており、ホームページにも掲載されている。利用目的は「入園のしおり」などの文書に記載して説明されており、写真使用については承諾書を徴しているとともに、開示請求に関するルールは個人情報保護規程の中に明示されている。なおボランティアや実習生に対しては、個人情報保護に関するオリエンテーションを行うことで、適切な情報管理に努めている。	
アクセス権限の設定 各PCはパスワードを設定することによってアクセス制限を行っており、紙情報のうち必要なものには施錠を行うなどしているが、一部に改善の余地が見られるので、今後の検討が期待される。	

カテゴリ-8	
8	カテゴリ-1～7に関する活動成果
サブカテゴリ-1(8-1)	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ-1で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ-2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ-4:「計画の策定と着実な実行」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
<b>組織運営に関するさまざまな取り組みへの着手</b> 平成21年度に保育課程の策定にあたり、「職員のためのしおり」をもとに新たなシステムを構築したり、ブロックリーダー制度を導入するなど、組織改革を意識したさまざまな取り組みに着手している。さらに今年度から「中長期計画試案検討会」を発足させて、23年3月の策定を目指している。また地域における連絡ネットワークの形成に向けた取り組みもやっている。	
サブカテゴリ-2(8-2)	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ-5で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-5:「職員と組織の能力向上」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
<b>保育の質の向上・確保に向けた書類等の整備</b> 保育課程や「BBハンドブック」といった、全職員で共有すべき基本事項についてとりまとめ、それを非常勤職員を含めた全職員で共有できるように配付、見直しを行うといった取り組みを開始している。	
サブカテゴリ-3(8-3)	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ-6で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ-7:「情報の保護・共有」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
<b>保育提供面における積極的な改善の取り組み</b> 安全防災委員会の取り組みとして、園内各所及び園外活動中の安全上の留意点や点検項目を今年度「安全 保育上気をつけること」にまとめ、職員間で共有している。また保護者へのさらなる情報提供に向け、3歳以上で行っている毎日の保護者への活動報告「壁新聞」の書式を見直し、より情報が整理された形で伝えられるようにしたほか、写真の掲示も回数を増やしたとのことである。さらに延長保育を昨年度まで利用していた1・2歳児室から乳幼児別に一時保育室と地域支援室で提供するように変更し、子どもの気分転換や保護者の送迎の利便向上につなげている。	

サブカテゴリ4(8-4)

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

財務状況

資金収支計算・事業活動収支のいずれにおいても問題のない状況にあり、将来のための準備も行われている。また資金収支予算については、年度当初の職員会議において説明されて情報共有が行われている。

サブカテゴリ5(8-5)

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

改善の成果

利用者満足・地域意向の収集のための取り組み

毎年の利用者調査で寄せられる意見に対しては、原則として保育所側のコメントとあわせて利用者にフィードバックしており、これ以外にも行事実施時のアンケートや個人面談、懇談会・グループ懇談会、年1回の「園長と話す会」など、複数の機会を設けて意向の収集に努めている。また地域向けの子育てひろば事業においては担当委員会が概ね毎月行われ、実施後の反省のほか、子育て講座でのアンケートなど、参加者から寄せられた意見を共有・検討している。

## サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

共通評価項目	
サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>4 / 4</b>	
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	
評点( )	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
○非該当	
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
○非該当	
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
○非該当	
サブカテゴリ-1の講評	
<p><b>園の保育の特色や思いを詳しく伝える「園のしおり」とホームページ</b>  パンフレット「園のしおり」には法人各園のシンボルツリーであるバオバブの紹介、デイリープログラムや年間行事のほか、保育目標(「私たちの願い」)や心がけている保育の方針、保健や食事で大切にしていること、保護者とのコミュニケーションなど、園として保護者に伝えたいことを詳細に記載している。併せて一時保育の案内、子育てひろばの案内のほか、行事のことを知りたい保護者には園便りを手渡すこともある。ホームページは法人運営4園合同で開設し、法人共通の保育や食事・保健の特色のほか、各園の保育内容や地域支援事業を伝えている。</p> <p><b>行政・関係機関や各所での掲示などを通じた地域・市民への情報発信</b>  パンフレット、一時保育・子育てひろば案内を市役所に常置するとともに、子育てひろば事業の便り「スイミー通信」やプレママ講座などの案内を地域の保健センターや若葉台駅前の市民ホール、近隣の商業施設に、秋祭り「バオバザール」のポスターを近隣地域に掲示している。市の保育所案内、市ホームページにも情報を掲載しているほか、地域向けの掲示板を沿道に設置し、子育てひろば事業など地域向けの園の取り組みを主に掲示している。</p> <p><b>要望に応じて受け入れ、園としての考え方を丁寧に伝える見学対応</b>  見学は副園長が主に対応し、曜日や時間帯は要望に応じて設定しており、子どもの活動と食事の様子も見てもらいやすい平日の11時頃を勧めることが多い。当日は玄関ホールのテーブルで園の沿革や保育の特徴などを説明し、説明や質疑を行いながら各保育室を案内し、一時保育や子育てひろばの紹介もしている。食の安全へのこだわりのほか、子ども達が自然の中で自由に遊ぶことを重視しており、洗濯物も多くなりがちなこと、また成長過程での必然としてのケガについてなど、園としての考え方を丁寧に伝えるようにしている。</p>	



サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6 / 6
2	サービスの開始・終了時の対応		
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(      )	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している		評点(      )	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている		○非該当
<b>サブカテゴリー2の講評</b>			
<p><b>説明会と面接、「入園のしおり」による入園にあたっての保護者への説明</b></p> <p>内定後に説明会を開催し、「入園のしおり」に沿って説明と質疑応答を行うとともに、各年齢の保育や行事についてはスライドショーも活用して具体的に伝える工夫もしている。「入園のしおり」には各年齢の発達の特徴と保育の概要、保健・安全や食事、日常の利用ルールや持ち物など、利用開始に必要な情報を掲載している。説明会後に行う各保護者との面接でも準備物や通園に際しての利用のアドバイスなどを伝えている。面接は保護者との最初の顔合わせの機会となるため、可能な限り各年齢の担任全員が参加している。</p> <p><b>各種の書式と面接による個別情報の把握、保護者との同意の確認</b></p> <p>入園時に保護者が記入する「保育予備調査票」「生活状況調査票」から個別の情報を把握するとともに、個別の面接によってそれぞれの子どもや家庭の状況を把握し、記録している。それらをもとに各園児の児童票を作成し、個々の情報を管理している。把握した個別の情報は職員会議で関係職員間の共有を図っている。面接時の説明と質疑によって、利用開始や説明内容について口頭で同意を確認するほか、ホームページや取材での写真掲載、駐車場の利用については書面で意思確認をしている。</p> <p><b>「慣らし保育」等の配慮による入園時の負担軽減と利用終了後の支援継続</b></p> <p>入園当初は「慣らし保育」として保育時間を調整し、徐々に園での生活に慣れてもらうようにしている。各園児の保育時間や配慮事項は個別に計画を作成、入園式の翌日には保育参加として実際の保育や園の食事を体験してもらい取り組みもしている。家庭生活との連続性に配慮するとともに、担任や早期保育受け入れ時の早番保育士をなるべく固定し、子どもの安定につなげている。卒園・転退園世帯とも、行事の際に案内を送るほか、中学に入学した卒園児の世帯を「中学入学を祝う会」に招くなどして、つながりの継続に努めている。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12 / 12
3	個別状況に応じた計画策定・記録		
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(        )	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している		評点(        )	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している		<input type="radio"/> 非該当

<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点( )
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点( )
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<b>サブカテゴリー3の講評</b>		
<p><b>一人ひとりへのきめ細かな配慮に向けた子どもの状況把握</b></p> <p>個別の子どもの状況は、入園時の面接・クラス懇談会(年3回)、3歳未満児に関しては年度当初に個人面談もしくは家庭訪問を実施するほか、年度末に個人面談を行い、把握している。情報は記録して、共有化する必要がある事項は昼の打合せや連絡会議・クラス会議・ブロック会議にて報告して共有化を図り、個々の子どもへの対応へと活かす仕組みとしている。また0・1歳の入園時面談の記録に関しては、離乳・排泄・健康状態等、把握した個別状況を一覧表にまとめ、職員に配付する等、個別にきめ細かい配慮が行えるように工夫している。</p> <p><b>法人独自の「BBハンドブック」と保育課程に基づく保育の計画及び実践・記録</b></p> <p>各計画の整合性、活用の仕方については課題があるものの、保育課程及び法人独自の「BBハンドブック」を作成しているほか、年間指導計画・月案・週案・日案を作成し、日誌に日々様子を記録している。また月案会議では、他クラスの質問や意見を保育に活かすとともに、内容については報告事項としてまとめ、全職員に配付するクラスもある等、職員間の共有にも努めている。年度末には全体の振り返りを実施、年間のテーマと保育の柱について話し合いを行うほか、「エピソード会議」を実施し、職員間で子どもの状況を把握し、日々の保育につなげている。</p> <p><b>保護者ととも子どもの育ちを支援していくための保育や発達に関する共有</b></p> <p>新入園児に関しては、入園説明会時に園長より園の理念などの話を行うとともに、「1・2歳のくらし」として、クラス編成の意義について、遊びや子どもの姿等を冊子にまとめて保護者に配付している。また年度当初のクラス懇談会では年間で大事にしたいことや今の子ども様子や発達に関して、職員から保護者に話をする等、保護者に必要な情報や子どもの発達について定期的に把握する機会を設け、保護者と園とがともに子どもの育ちを援助できるように努めている。また日々の子どもの様子については昼の打合せにて職員間で情報を共有している。</p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7 / 7
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点( )	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点( )	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている		○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している		○非該当
◎あり ○なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている		○非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p><b>プライバシー・個人情報の保護、保護者との認識共有に向けた仕組み</b></p> <p>子どもに関する情報を外部とやり取りする必要がある場合には、必要に応じて保護者に同意を得るようにしている。また個人情報の取り扱いについては、入園時に配付する「入園のしおり」に記載の「個人情報の保護について」において、プライバシー情報や写真掲載について、あらかじめ了承を得ない場合には年度初めに事務所まで申し出られたい旨を伝え、保護者へ周知している。ただし保育室内等での情報の取り扱いには一部に課題も見受けられており、さらなる管理の徹底に向け、ルールの特化や職員の意識啓発に向けた取り組みを期待したい。</p> <p><b>子ども一人ひとりの尊重や各家庭の考え方への配慮に向けた取り組み</b></p> <p>年度当初の全職員参加の会議で、園長が子どもへのアプローチ、保護者への接し方、安全確保など保育者としての基本について、資料配付の上で訓示している。また法人運営4園共通の職員規範である「BBハンドブック」や保育課程の「バオバブ保育園職員綱領」などの中で、子ども一人ひとりの尊重など職員としての基本姿勢を明示している。日々の交流や面談等で把握した個々の家庭の要望や考え方は会議や打合せで職員間で共有し、日々の支援につなげるとともに、必要に応じて発達支援など関係機関と連携している。</p> <p><b>虐待の早期発見・対応に向けた職員間の認識共有</b></p> <p>「BBハンドブック」中に「困難な問題を抱えた家庭への支援」として章を設け、家庭支援や虐待への早期対応について言及している。発見や報告・連絡等については特にマニュアル等はないが、疑いのあるケースが見られた場合は市の子ども家庭支援センターに通報することとなっている。職員の研鑽については、昨年度、副園長が関係する研修に参加し、資料の回覧によって組織内の共有を図ったとのことであるが、それ以外には特に取り組みを行っておらず、課題と認識されている。</p>			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	11 / 11
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点( )	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点( )	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点( )	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評			
<p><b>職員として求められる考え方や手順等を網羅した「BBハンドブック」</b>                      「BBハンドブック」に「遊びと活動」「保護者との関わり」「食事作りと食育」「保健・安全への配慮」「地域への子育て支援と社会貢献」「保育計画・記録・まとめ・研修」「職員同士の関係と園の運営」の各章がまとめられている。法人運営園の職員として必要な現場実践における知識・手順等が明示され、常勤職員全員に配付するとともに、非常勤職員には採用時に内容を確認させている。また緊急連絡とクラスごとの雑用分担については現場に掲示しているほか、感染症対応など保健衛生に関しては法人内で別にマニュアルを整備している。</p> <p><b>職員参画による振り返りと改善、多彩な研鑽機会など、積極的な資質向上</b>                      毎年度末に常勤全職員が反省を行い、自身の年間の取り組みを振り返り、非常勤職員は年間で印象に残るエピソードをつづって、それぞれ資料にまとめられ、配付によって共有が図られている。また日常の保育実践については、年間指導計画に基づいた振り返りを年2回行い、園全体で反省を行って翌期につなげている。職員の資質向上の機会として、外部講師を招き、造形・描画やわらべうたについて学ぶほか、日常保育でのエピソードや子どもの姿について語り合う「エピソードの会」、法人4園合同の外部講師による研修など、独自の取り組みがある。</p> <p><b>安全な保育提供に向けた事例の収集や安全防災委員会の活動、設備面の工夫など</b>                      危険事例や事故・ケガについては、内容に応じ「インシデント報告書」「事故報告書」が提出され、内容の報告・共有は毎日の打合せや連絡会議の中で行われている。また安全防災委員会の取り組みとして、園内各所及び園外活動中の安全上の留意点や点検項目を今年度「安全 保育上気をつけること」にまとめ、職員間で共有している。今後これをもとに点検のチェックリスト等につなげていく予定としている。その他、玄関の電子錠設置、複数箇所への防犯カメラ設置、職員の救急救命講習など、安全向上に向けて取り組んでいる。</p>			

## サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
		37 / 37	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている			
		評点( )	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけができるよう、環境構成を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
評価項目1の講評			
<p>個々の子どもの発達に応じた保育環境の工夫</p> <p>0歳や1・2歳の部屋は子どもの発達や状況に応じてコーナーを活用して保育を行っている。1・2歳に関しては自我の芽生えの時期のため、少人数で遊びを展開できるように、また興味や関心、発達の状況などにより、クラスだけの活動ではなく、ホールや廊下、玄関ホールやベランダを活用し、活動内容に応じて集中して活動できるように工夫している。さらに同年齢の子どもだけの集団ではなく、異年齢での活動を通して、発達の中でトラブルを避けることにもつなげる等、常に子どもの状況に応じて活動が画一的にならないように園内を活用している。</p> <p>異年齢を通した互いを尊重する取り組みと一人ひとりの状況の把握のための工夫</p> <p>3歳以上は異年齢でグループを作り一年間を過ごし、さまざまな活動をともにすることにより、実体験の中で思いやりや優しさの心を育むとともに、子ども達の日々の保育活動を行事に活かしたり発展させたりする中で、子どもの成長を促すことができるよう配慮している。また一人ひとりの状況については、毎日の昼の打合せや保育会議にて把握し、子ども達の発達に応じた援助ができるよう、職員間で共有化を図りながら保育を実践するとともに、定期的実施しているエピソード会議において子どもの様子を把握し、日々の保育や援助につなげている。</p> <p>保護者との連携や個々の子どもの育ちに配慮した保育実践と共有化への取り組み</p> <p>乳児はかみつきが多い時期のため、成長の一環として起こるということを懇談会や面談時に保護者の理解を得るよう努めるとともに、個別に日常の状況を伝えるようにしている。また職員においても、クラスの枠を超えて職員間で連携を図りながら子どもを援助できるようにしている。配慮を要する子については、月案会議やクラス会議にて話し合いを行うとともに、他クラスへの伝達が必要な場合には、連絡会議や昼礼等を活用し伝えている。また市の巡回指導を活用し保育に活かした事例もある等、個々の子どもに応じた配慮を行っている。</p>			

## 2 評価項目2

家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている

評点( )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当

## 評価項目2の講評

## 日々の情報交換による保護者との連携のあり方

子どもの様子については、各個人の連絡帳の活用と送迎時の担当職員とのコミュニケーションを通じて把握し、対応している。担任が直接対応できない時間帯の送迎については、早朝担当職員及び延長担当職員から子どもの様子を保護者に伝えるなどしており、担任自ら伝えなければならない案件に関しては、必ず担任本人から保護者に直接連絡を取るよう配慮している。保護者からの伝達事項は、早朝・延長担当が担任に直接伝えるほか、昼の打合せでの報告や日誌への記録により、職員間で情報を共有するよう努めている。

## 発達に応じ、家庭と連携して進める基本的な生活習慣の確立のための取り組み

0歳クラスでは、入園時の説明会にて離乳食の進め方や離乳食を始める前に知っておきたいこと等をまとめた資料を保護者に提供、クラス懇談会時に子ども発達の状況を担当から口頭で説明したり、連絡帳や個人面談で保護者と情報共有を図るようにしている。またトイレトレーニングは個別に保護者と情報交換を行い、家庭での様子を考慮して進める時期を決定し、連携しながら行うなど、子どもの負担にならないように配慮し、無理強いしない、失敗しても叱らない等、個人面談で保護者と話し合いを持ちながら実施している。

## 子どもの発達や生活リズム・生活状況を考慮した休息・午睡時の配慮

午睡については、0歳はベッドと畳コーナーに分け、寝る時間によって柔軟に対応している。また1歳では畳のコーナーで落ち着いて寝るようにしていたり、布団の場所を特定し、落ち着いて眠れるようにしているとのことである。お昼寝番の職員を特定し、早く起きた子どもや眠れない子どもへの対応につなげているほか、夜の睡眠状況によって早めに起こしたり、長めに眠るように配慮するなど、個別の支援を行っている。

## 3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点( )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じることができるような視点を取り入れている	<input type="radio"/> 非該当

## 評価項目3の講評

園内におけるさまざまな環境作りの配慮が促す子どもの豊かな成長

園庭は3歳未満児向けと3歳以上児向けに分かれており、3歳未満の園庭には築山や回廊になった花壇などが配置され、3歳以上の園庭ではダイナミックな運動遊びが展開できるような遊具のほか、実のなる木が植えられており、四季の変化が感じることができるなど、子どもの成長を促すさまざまな工夫が見られる。また園内でも子どもの興味や関心に応じて各々の場所で遊びが展開できる等、子どもの発達に応じた環境を提供したり、異年齢の集団を編成して子ども達の遊びの幅を広げるなど、さまざまな工夫により、日々の生活を豊かにしている。

子どもの意欲や発想を尊重し、クラスや部屋の枠を超えて行う活動・遊び

1・2歳の保育士は子どものやりたい気持ちを尊重し、「待つ」姿勢を心がけ、言葉のかけ方にも配慮するとともに、環境構成面でも、積み木をじっくりやりたい子どもには邪魔されないできるようにしたり、3室ある同年齢の保育室を活用して他クラスで食事をしたり、一緒に遊ぶ等、クラスや部屋の枠を超えて活動を行っている。また他クラスの子どもの場でもその場で遊びが続けられるよう、職員が連携を図りながら、子どもの活動を継続させられるように配慮している。子どもの気持ちを尊重して散歩先を決める等、活動もフレキシブルに行っている。

年齢に応じた園外活動と四季を感じ、恵みを経験できるさまざまな取り組み

天気の良い日は年齢に応じて近隣の公園に出かけるほか、月1回程度、「空弁当の日」を設け、給食をお弁当にして、違う環境で楽しく食べる活動がある。また栽培活動としてトマト・しいたけ・カブ等を育てるほか、園児の祖父母から提供されたイチゴを栽培する機会などを設けている。クラスで栽培したいだけはクラスごとにホットプレートで焼いたり、みそ汁の具として味わっている。また園庭の梅を各クラスで収穫し、漬け込んで梅ジュースを作り、ジャム作りや夏季のカキ氷のシロップとして楽しむなど、四季の恵みを経験できる多彩な活動を行っている。



4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点( )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4の講評		
<p><b>子どもの主体性を育み、協力し合う大切さを実感できるさまざまな行事</b>                  親子で一緒に体を動かすことを目的に「プレイデー(運動会)」を実施、園での日常の遊びや子どもに提供したい内容をプログラムとして、体を動かし遊べる各種の演目や競技を採り入れている。またプレイデーの前には「あそびの会」として、年齢を超えてさまざまな遊びを実施、その経験から遊びの幅が広がったり、異年齢同士の関わりが深まり、プレイデーに向けて団結力を高める機会となっている。さらにその中で子どもが楽しめるものをピックアップしてプレイデーのプログラムにも反映する等、日々の保育と行事を連動させ、有意義なものとしている。</p> <p><b>工夫を凝らした季節の行事が培う、子どもの多彩な経験と豊かな発達</b>                  「夕涼み会」では盆踊りを行うほか、催し物として保護者による太鼓の披露があり、駄菓子屋等が出店されて、親子で縁日の雰囲気を楽しめる日としている。また年長児対象に「お泊り会」を1泊2日で実施、親元から離れて友達との関わりを深め、普段できない体験を行うことで子ども達一人ひとりが自信をつけることを目的とし、山登りや沢遊びを経験している。またサンマの炭火焼は全園児対象に園庭で実施、生のサンマに触れ、焼けていく様子を観察し、できたサンマは園庭で味わうとともに、後日にサンマの絵を描くなど、保育活動につなげている。</p> <p><b>地域のさまざまな人々との交流を通じた学びや関係性の構築</b>                  年長児は近隣の小学校へ行事参加や見学に出かけるほか、就学に向けた取り組みの一環として、進学する小学校へ見学に行く機会を設けている。また中高生の職場体験、大学生のボランティア等も積極的に受け入れを行い、子ども達との関わりが持たれている。さらに大工さんが来園し、家具や遊具のメンテナンス、納品などの際に、子ども達に新しい遊具のお披露目を行ったり、造っているプロセスを危険のない範囲で観られる機会を設け、物を大切に作る心や作り手への感謝の気持ちを日々の生活の中で育めるように配慮している。</p>		

## 5 評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点( )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当

## 評価項目5の講評

## 異年齢での活動による子どもの育ちと当番活動の取り組み

3歳以上は年間を通じて「たてわり、トマト家族構成」のグループで過ごす機会を設け、各グループでチューリップを植えたり、トマトを栽培する等の活動のほか、散歩や清掃活動、野焼きパン作りを一緒に行う等、さまざまな活動をともにしている。清掃活動では「グリーンデー」と位置づけ、幼児クラスの園庭に落ちている石や葉などを子ども達が清掃し、「バオバブザール(秋祭り)」のための準備とする等、意義ある活動につなげている。また当番活動として4歳はウサギ、5歳はチャボの世話をを行うとともに、食事の準備を行う等、さまざまに取り組んでいる。

## 延長保育時間の保育環境及び保護者と連携した取り組み

延長保育は1・2歳と3歳以上の2部屋を活用して保育を実施、集中して遊べる遊具や玩具を提供するように心がけている。延長保育時には子ども達が延長保育用の部屋に移動し、その部屋にある玩具でじっくり遊べるよう配慮している。また3歳未満には個人用の手作り玩具として保護者に箱や写真絵本を作成してもらい、子どもの愛着に配慮して園での生活が安定したものとなるようにしている。子ども達は進級の際に一緒に移行する等、集団生活の中においても、一人ひとりの子どもの気持ちを尊重した取り組みを保護者とともにやっている。

## 長時間保育に対応した職員間の連携

延長保育の時間はクラスの職員がローテーションで関わるようにしているため、他クラスの情報も担当職員から昼礼ミーティングの際に口頭で伝えるようにしている。また延長の時間については「えくぼ保育日誌」に記載するほか、昼の打合せの際に伝え、職員の共有化に努めている。また直接保護者に伝えることがある場合には、担当職員が直接話をするようにしている。早朝の時間に関する引き継ぎは、緊急を要する場合には口頭で担当職員に伝えるようにしている。今後は共有化がさらに円滑に行える仕組みの構築を期待したい。

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点( )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目6の講評		
<p><b>食材にこだわった食事の提供や献立作成、給食が楽しくなる工夫</b>                  献立に関しては素材の味を活かして、おやつはほとんど手作りにて提供、食材は季節に応じた旬の食材を採り入れ、米と納豆に関しては提携農家と連携を図り、安全な食材の提供に努めている。また七分米や玄米の日を月1回設けるほか、季節の行事に応じた献立を採り入れるとともに、4・5歳はホールにてバイキングで自分で盛り付け、食べる経験をしたり、園庭やベランダ、他クラス、ホール等で食事を楽しむ機会を設ける等、毎日の食事が楽しくなるさまざまな工夫を行っている。今後は計画の活用や記録の取り方のさらなる工夫について期待したい。</p> <p><b>調理活動や味噌作り、米作りなど、発達に応じて食を楽しみ、興味を深める食育</b>                  給食の食材を子ども達の保育に活かし、年長児がキャベツを切ったり、乳児がトウモロコシの皮むきやきぬさやの筋取りをするなどの取り組みをしている。また3歳以上の味噌作りでは、豆を潰し、麴の中に入れて塩でふたをし、調理室の倉庫に入れるまでの一連の流れを経験して、できあがった味噌で夏野菜を食べるほか、少しずつ持ち帰り、家庭でも楽しめるようにしている。さらに農家と提携し、年長児が苗から稲を育て、収穫した稲穂を園庭で穂懸けにして乾燥させ、脱穀し、飯ごうで炊いて食べるなど、さまざまな食育の活動を行っている。</p> <p><b>保護者に食育の取り組みを伝え、食への関心と共通理解を深める取り組み</b>                  玄関スペースでは給食メニューのサンプルを展示するほか、各クラスでは写真で子どもの食育活動を紹介し、園便りやクラス便りでも取り組みを伝えている。また0歳に関しては部屋の中に調理室があるため、日頃より離乳についての質問に答えることができる等、日々の保護者との交流を大切にするとともに、離乳食の試食会を年度当初に実施、段階ごとに試食を行い、栄養士と担任とともに、そのつど相談にも応じられるようにしている。また給食の試食会を年2回実施、保護者へ給食への関心を深めてもらうためのさまざまな取り組みを行っている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点( )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目7の講評		
<p><b>日常保育における子どもへの保健・安全などに関する指導</b>                  看護師が感染症流行の時期を見計らって手洗いやうがいの指導を行うほか、歯科衛生士が来園しての歯磨き指導を実施している。安全防災委員会の取り組みとして、園内各所及び園外活動中の安全上の留意点や点検項目を「安全 保育上気をつけること」にまとめ、職員間で共有するとともに、日常の子どもへの指導につなげている。その他、日頃の保育や避難訓練の際に、危険回避やケガの予防について、随時子どもに話をしているとのことである。</p> <p><b>看護師と園医が連携して行う子どもに対する保健ケアの取り組み</b>                  看護師が日常の健康管理を行うとともに、半期ごとのまとめとして感染症と事故・ケガの毎月の状況を報告している。慢性疾患のある子どもに対しては保護者と随時連携を取りながら支援を行っているほか、園医や同法人の他園の園医に適宜助言を受ける体制を整えている。また健診を0歳に毎月、1歳以上は各年2回行うほか、全年齢の歯科検診と1歳以上のぎょう虫卵検査、5歳の視力検査を行い、定期的に子どもの状態を把握するとともに、園医による定期検診を毎月行い、診療や相談を受けられる体制を整えている。</p> <p><b>保健便りや随時の掲示・配付による保護者への保健に関する情報提供</b>                  「入園のしおり」にページを設け、園としての保健に関する考え方を保護者に伝え、毎月の保健便りには感染症の発生状況、時季ごとの流行性疾病のほか、虫除けや自然治癒力の話など、園の保健に対する方針に関連した話題を掲載している。また感染症、熱中症など、緊急性のあるものは別途随時書面を配付するほか、厚労省など関係機関からの情報は随時玄関などで掲示・配付している。感染症の発生時には玄関ホールや各保育室など複数箇所にて情報を掲示、SIDSについては啓発ポスターの掲示などのほか、入園時に保護者に話をしているとのことである。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援している		評点( )
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目8の講評		
<p><b>保護者の就労や家庭の事情等への配慮に向けたさまざまな取り組み</b>                  入園時の情報収集以降、毎日のコミュニケーションや連絡帳、個人面談、別に行うグループ面談「おしゃべり会」、新入園世帯には家庭訪問も行うなどして、個々の家庭の事情や子どもの様子を把握している。把握した状況は記録に残すとともに、必要に応じて計画や児童票にも記載し、個別支援につなげている。また懇談会は保護者も子どもの翌日ゆっくり休める金曜、運動会は多くの世帯が参加できる日曜に設定するほか、面談も保護者の希望に応じて日時を設定するなど、保護者の就労等に配慮している。</p> <p><b>多彩な懇談・懇親機会や保育参加、「ワークショップ」などによる保護者との理解共有</b>                  各クラスの懇談会を年2～3回に行うほか、保育参加を保護者の希望に応じて受け入れ、子どもの発達や育児について園と保護者が見識を深め合う機会としている。また子どもも参加して園の家具の磨き掃除や園庭整備、軽食を摂りながらの懇談などを行う「ワークショップ」、餅つきや調理担当と一緒に味噌作りを体験する機会など、園と保護者、保護者同士の交歓がさまざまに行われている。さらに1・2歳3クラスのうち2クラスで「気まぐれ喫茶」と題した保護者の懇親の機会があるほか、延長保育のクラス「えくぼ」でも懇談会を年2回行っている。</p> <p><b>各種の便りや「壁新聞」等による情報提供、保護者の意向把握の取り組み</b>                  園便り「であいの広場」や各クラスの便り、連絡帳のない3歳以上の保護者に毎日の活動を伝える「壁新聞」、さらには園内各所で活発に行われる写真掲示など、積極的な保護者への情報発信の姿勢が見られる。面談は必要な時に行う方針として、各年齢とも各世帯に年1～2回程度行っている。保育参加や行事の後にはアンケートを実施、寄せられた意見は集約されて職員会議で報告され、保護者には園便りや行事後の臨時の便りで紹介している。意見箱(「なんでも投書箱」)も設置するなど、保護者の意向把握にも取り組んでいる。</p>		

## 9 評価項目9

地域のニーズに即した子育て支援を実施している

評点( )

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当

## 評価項目9の講評

## 子育てひろば事業などによる多様な地域子育て支援

地域子育て支援として、一時保育のほか、子育てひろば事業として「あそびの会よちよち」「同とことこ」「土ようびひろば」「赤ちゃんの会」「おしゃべり会」など、子どもの月年齢や保護者のニーズに応じ、多様なメニューを提供している。事業の担当委員会を概ね毎月実施、反省や参加者から寄せられた意見の共有・検討も行っている。また年度末には年間の反省を行い、イベント・活動ごとの振り返りを行って次年度につなげている。掲示板など従来の地域への広報活動に加え、さらに認知を拡げ、積極的な参加を促していくことを課題ととらえている。

## 「スイミー通信」や園内での掲示・配布など、内外の子育て世帯への情報提供

園の地域支援事業の便り「スイミー通信」を年10回発行し、その月の子育てひろば事業の案内のほか、絵本の紹介や園の保育士による子育てに関する話題など、地域の子育て家庭の参考となる情報を伝えている。また園内でも市民活動や子育て関係のイベント、関係機関からの家庭支援・発達支援に関する情報など、子育てに役立つ情報を随時掲示・配布し、地域・在園の世帯に向けた支援の一環としている。

事業者が特に力を入れている取り組み		
評価項目	6-4-5	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている
タイトル	異年齢でのさまざまな行事や保育の取り組み	
内容	3歳以上が異年齢で活動をとにするグループ「たてわり、トマト家族」を通じ、年上・年下の子ども同士の関わりの中で、相互に成長が促される取り組みを展開している。各グループでチューリップを植えたり、トマトを栽培する等の活動のほか、散歩や清掃活動「グリーンデー」、野焼きパン作りを一緒に行うなど、さまざまな活動に協力して取り組んでいる。「グリーンデー」では幼児クラスの園庭の石や葉等を清掃し、「パオバザール(秋祭り)」に向けた準備とするなど、子どもの意欲や役に立てる喜びを導き、豊かな成長につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み		
評価項目	6-6-3	さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している
タイトル	職員の資質向上に向けた多彩な取り組み	
内容	半期ごとに年間指導計画に基づいた振り返りを実施し、園全体で反省を行うほか、年度末には常勤全職員が各人の年間の取り組みを振り返り、非常勤職員は年間で印象に残るエピソードをつづって、それぞれに配付資料にまとめ、共有が図られている。さらに外部講師による造形・描画やわらべうたの研修、日常保育で見られたエピソードや子どもの姿について語り合う「エピソードの会」、法人4園合同の外部講師を招いた研修など、研鑽の機会をさまざまに設定し、各職員の資質向上につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み		
評価項目	6-2-2	サーブスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している
タイトル	保育所が子ども・保護者にとっての心のよりどころであり続けるためのさまざまな工夫	
内容	子どもにとっても保護者にとっても、保育所がいつまでも当時の仲間や職員との絆を保つ心のよりどころであり続けたいとの願いから、利用終了後の関係や支援の継続に注力している。「中学入学を祝う会」や保護者と連携した同窓会など、園を離れた後もまた子どもや保護者が園を訪れる機会をさまざまに設定するほか、卒園世帯・転退園世帯とも、プレイデー(運動会)やパオバザールなどの行事では案内を送り、行事の中にも参加の場を設けるなど、子どもの成長過程における保育所時代の大切さを意識し、積極的な取り組みを行っている。	

特に良いと思う点		
1	タイトル	食事提供の充実への配慮と子どもの豊かな成長を促すさまざまな食育活動
	内容	食材は季節に応じた旬のものを探り入れ、提携農家との連携による安全な食材調達への配慮、七分米や玄米の提供なども行っているほか、4・5歳のバイキング形式での食事、園庭やベランダで食事を楽しむ機会など、給食を楽しむ工夫をしている。また給食の食材を年齢に応じて調理活動に活かしたり、栽培した野菜を調理して食べるなどのほか、園庭で収穫した梅を使ったジュース作りやジャム作り、工程をすべて経験できる味噌作りや米作りなど、さまざまな食育の活動を行い、子どもの食への興味や豊かな感性の伸長を促している。
2	タイトル	多様な機会を通じた園と保護者、保護者同士の交流と認識の共有
	内容	園と保護者、保護者同士の交流機会をさまざまに設け、認識を共有し、深め合う取り組みを行っている。年2～3回の各クラスの懇談会に加え、延長保育のクラス「えくぼ」でも懇談会を年2回行い、異年齢の保護者が集まり、補食の試食のほか、延長保育利用世帯に共通する生活や子育ての悩みを話し合う機会にもなっている。さらに希望に応じて受け入れる保育参加、子どもも交えて園の家具の磨き掃除や園庭整備、軽食を摂りながらの懇談などを行う「ワークショップ」、1・2歳クラスでの「気まぐれ喫茶」など、独自の機会づくりを積極的に行っている。
3	タイトル	中・長期計画策定に向けた取り組み
	内容	中・長期計画の策定に向け、5年単位15年間の中・長期計画の素案が示されているが、年間事業計画や行動計画として策定されてはいなかった。この状況をうけて、今年度から法人内4園の職員12名の委員からなる「中長期計画試案検討会」を発足させ、中・長期計画の完成に向けた新たな取り組みを開始している。この検討会は毎月1回の定期的な討議を重ねており、今度来3月までの中・長期計画策定を目標に、活動が継続されている。
さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	保育の各計画の整合性や記録のあり方等におけるさらなる向上
	内容	法人独自の「BBハンドブック」に加え、21年度に保育課程を策定し、これに基づいて各指導計画を作成、月案会議での検討や年度末の振り返り、「エピソード会議」など、さまざまな取り組みを行って、子どもの育ちの共有と保育内容の充実にも努めている。各計画類の整合性や記録の仕方などについては、さらなる向上の余地も見られることから、今後は各計画の立案の意図や目的をより明確にし、より実践に役立つ内容や記録とすることで、継続的な保育の質の向上や職員間の認識共有が図られていくことを期待したい。
2	タイトル	職員に求める基本事項の周知と徹底に向けたさらなる取り組み
	内容	「BBハンドブック」など、職員としての規範や日常業務における手順などを文書化している。ただし、それらの園として定めた基本事項の現場での実践状況を点検する取り組みについては、リーダー層による日常的な指導以外には、組織全体としての仕組みは設けられておらず、マニュアル等の周知についても、作成当時の読み合わせ以降は各人の自主的な研鑽に委ねられているとのことである。利用者調査や職員自己評価においても、職員の対応や業務への取り組み方などについて意見が見られており、今後のさらなる取り組みの検討が待たれる。
3	タイトル	個人情報の取り扱いに関するさらなる配慮と仕組み整備
	内容	個人情報保護規程を整備し、ホームページにも掲載している。保護者には利用目的を各種情報収集時の様式に明記するほか、面接時に口頭で同意を確認するとともに、ホームページや取材材での写真掲載、緊急時の連絡方法や緊急連絡網への記載については書面で意思確認をしている。ただし、現場での情報の取り扱いについては一部に課題が見られているため、今後は現場での実態をふまえ、氏名や生年月日、肖像など個人情報の範囲を明確にし、これらの利用について保護者と認識を共有するとともに、運用のルールを明確化と徹底を図ることを期待したい。